

# 新学習指導要領の内容を踏まえた特別活動に関する講義の改善計画

ーキャリア教育の観点を中心にー

高 味 淳 [鹿児島大学教育学系 (教職大学院)]

廣 瀬 真 琴 [鹿児島大学教育学系 (教職大学院)]

奥 山 茂 樹 [鹿児島大学教育学系 (教職大学院)]

山 元 卓 也 [鹿児島大学教育学系 (教職大学院)]

A blueprint for improving lectures on special activities based on the contents of New Courses of Study:

Focusing on career education

TAKAMI Jun, HIROSE Makoto, OKUYAMA Shigeki and YAMAMOTO Tatsuya

キーワード：特別活動、キャリア教育、教職大学院、現職教員学生

## 1. はじめに

本稿で報告する科目「特別活動の理論と実践」は、平成29年度4月に鹿児島大学大学院教育学研究科学校教育実践高度化専攻（以下、本学教職大学院）が開設時から選択科目の指導法深化分野の科目として位置付けられている。

本科目は、平成29年度当初から実務家教員3人で担当しており、特に学校現場での経験を踏まえながら、より実践的な講義を展開してきた。また、昨年度は、本科目のねらいの一つである「特別活動の意義や特色を理解できる」ことをより具現化するために、本学の研究家教員による知見に学ぶ内容を組み込み、理論面の強化も行ってきた。その結果、特に、現職教員学生にとって特別活動を捉え直す機会になり、特別活動に対する認識がより深まっていく姿が見られた。一方、学生に活動の時間配分の見通しを十分に持たせられなかったり、講義時間内でのワークシート記入の時間が十分確保できなかったりと、いくつかの課題も見られた。また、キャリア教育など、新学習指導要領の内容を踏まえた内容の充実も求められる。

そこで、受講生が特別活動に対する学びをより深められるよう、昨年度の実践を振り返りつつ、課題に対する改善策や新学習指導要領の新たな観点を加えながら本年度の講義概要を報告する。

## 2. 令和元年度本科目の改善点について

### 2.1. 学修内容の改善について：小・中学校学習指導要領解説（特別活動編）から ーキャリア教育の観点の挿入ー

今回の学習指導要領の改訂により、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」という特別活動を指導する上での3つの視点が明確に示された。また、特別活動は、「キャリア教育の要」であ

表1 各講義の受講生のレポートにおけるキーワードの頻度 (平成29年度実施)

第1, 2回		第3, 4回		第5, 6回		第7, 8回		第9, 10回		第11, 12回		第13, 14回		第15回	
抽出語	回数	抽出語	回数	抽出語	回数	抽出語	回数	抽出語	回数	抽出語	回数	抽出語	回数	抽出語	回数
特別活動	7	先生	6	学級	4	集団	7	学部	4	活動	9	活動	8	活動	8
学習指導要領	5	目指す	4	集団	4	活動	6	活動	4	生徒	7	イベント	7	実践	4
教科	4	コミュニテ	3	力学	4	アンケート	4	考える	4	先生	5	学級	5	集団	4
		学ぶ	3	質問	3	学級	3	学校	3	行う	4	子供	5	発表	4
		教師	3			感じる	3	楽しい	3	デザイン	3	時数	5	問い	4
		講義	3			調査	3	教育	3	学校	3	クラス	4	デザイン	3
		集団	3					時間	3	考える	3	係	4	頂く	3
		組織	3					話合い	3	分析	3	思う	4	特別活動	3
		特別活動	3									特別活動	4		
												経営	3		
												自主	3		

※2 コマ連続で実施されるため、全8回のレポート提出としている。

ることや、さらには「学級活動における自発的、自治的な活動が学級経営の充実に資する」ことなどが明確に示された。特に、キャリア教育という語については、今回、小学校の学習指導要領に初めて示され、今般、社会で生きて働く力を育成する教育課程の中核にキャリア教育が据えられたことを鑑み、全教育活動で行われつつも、関連ある活動を多く含んできた特別活動がキャリア教育の要の時間としての役割を担うことが明確に示されたことは、大きな改革の一つと言えるのではないか。これからの学びや生き方を見通したり、活動を振り返ったりするなどして自らのキャリアを形成することは、将来、社会を生き抜いていく上で、重要な課題と捉えられたと言ってよいであろう。

これらを踏まえ、改めてこれまで実施してきた本科目「特別活動の理論と実践」の学びを見てみると、下古立が行ったレポート(表1)から受講生は、学習指導要領の内容について学びを深めているものの、キャリア教育の内容について、ほとんど触れていないことが分かる(「自主」「集団」などキャリア教育に関するキーワードが若干見られる)。したがって、キャリア教育の内容について学ぶ手立てをより一層充実していく必要があると考える。

## 2.2. 学修の方法の改善について

これまで、特別活動に対する学びをより深めるために、理論の学修、特別活動に対するアンケート調査・分析、望ましい集団活動のデザイン作成・プレゼンテーションなど、様々な手立てを講じてきた。その結果、講義前の特別活動に対する理解が深まっていく姿が見られたが、受講生が活動の時間配分の見通しまで持てなかったり、講義時間内に振り返りなどのシートの記入が終わらなかったりするという課題も見られた。受講生の中には、学部新卒学生もいる可能性があることから、これらの課題に対する手立てを構想しておく必要がある。

以上を踏まえ、次のような改善点を基に、本年度の科目を構想する。

改善① キャリア教育の観点の挿入

改善② 活動に対する見通しと振り返りの時間の確保

### 3. 令和元年度本科目の構想

#### 3.1. 本科目の目的と内容

本科目の目的と内容は、次のとおり示されている（「平成31年度 履修案内」鹿児島大学）。

「特別活動の意義や特色を理解することを目的とする。学部新卒学生は、特別活動の体験や得られた学びに関する調査を行い、データを収集・分析する。現職教員学生は、特別活動の特徴を、校種や行事等の学習指導要領の内容を観点として、整理・分析する。結果に基づき、どのような集団活動をデザインするべきかについて、協働して検討する。その際、特別活動の諸論文や図書、実例事例等を読解するなどしながら、理論と実践の往還を図る。」

#### 3.2. 本科目の授業計画

先の改善①、②を踏まえ、次のように本科目を構想する。

まず、目的については、キャリア教育の観点を盛り込み、より特別活動の意義や特色を理解させる。次に、内容であるが、キャリア教育に関する内容については、近年学習指導要領に表記されたため、学部新卒学生にとっては、キャリア教育について学んだ経験は少ないのではないかと考える。したがって、聞き取り調査等を行う際にはキャリア教育がどんなものであるか予想させるなどの視点を加えるようにする。また、同様に、現職教員学生についても、キャリア教育の観点を踏まえた教育活動の実施はあまり経験していないと考えられるため、これまでの実践とどのようなつながりが想定されるかを踏まえさせ、これからの活動をデザインさせる。その際、キャリア教育の内容も踏まえた書籍等の読解も盛り込み、活動の見通しや内容の共通理解をさせながら、理論と実践の往還を図るようにする。次頁の表2は、これらを踏まえた本科目の授業計画である。

### 4. 改善点の具体的方策

これまで本科目は、全15回の講義で、大きく3つのステップから構成されてきた。第1～4回はオリエンテーション、理論学修（ステップ1）、第5～9回は、調査のデザイン、実施、分析等（ステップ2）、第10～15回は、望ましい集団活動のデザイン作成、プレゼン等（ステップ3）である。この構成を継承しつつ（「望ましい集団活動」の「望ましい」は今回の改訂で削除されたため、以下、「集団活動」とする。）、それぞれのステップにおいて、表2の内容を踏まえた具体的な手立てを述べる。

#### 4.1. ステップ1（オリエンテーション、理論学修）において

これまで、第1・2回は、講義の目的や今後の計画等を伝えるオリエンテーションを行っている。また、ワークシートに現時点での自身の特別活動の定義を記入すること、さらには、特別活動の思い出や実践内容など、これまでの特別活動への取組を振り返る活動、学習指導要領を確認する活動を行ってきている。図1に示したワークシート（「特別活動とは・・・シート」）の活用によって、受講生の講義前と講義後の学びの変容が見て取れるが、今回の改訂を踏まえ、キャリア教育の観点を加え、その学びの変容を見て取るようにしたい。また、学習指導要領を確認する際に、昨年度の資料にキャリア教育の観点をさらに盛り込み、キャリア教育に対する理解も深めさせたい（改善点①）。

第3・4回は、本年度も本学研究家教員による知見に学ぶため、ゲストティーチャーとして招き、講義、演習を実施したい。その際、キャリア教育の観点からの知見ももらうようお願いしたい(改善点①)。ただし、キャリア教育については、これまでの経緯や具体的な進め方などについて深く

表2 本科目の授業計画(平成30年度との比較)

	平成30年度の授業計画	本年度の授業計画
第1回	○ オリエンテーション(特別活動の思い出や、これまで実践したこと等の共有)	○ オリエンテーション(特別活動の思い出や、これまで実践したこと等の共有、 <u>キャリア教育とは(改善①)</u> )
第2回	○ 特別活動の特徴分析(特別活動の特徴と教科等との比較分析)	○ 特別活動の特徴分析(特別活動の特徴と教科等との比較分析)
第3回	○ 特別活動について研究者の知見に学ぶ1(講義形式による理論学修)	○ <u>特別活動について研究者の知見に学ぶ1(講義形式による理論学修(改善①))</u>
第4回	○ 特別活動について研究者の知見に学ぶ2(理論学修をもとにした演習等)	○ 特別活動について研究者の知見に学ぶ2(理論学修をもとにした演習等)
第5回	○ 調査のデザイン1(質問項目の検討)	○ <u>調査のデザイン1(質問項目の検討、キャリア教育の観点も含める(改善①))</u>
第6回	○ 調査のデザイン2(予備調査の実施)	○ 調査のデザイン2(予備調査の実施)
第7回	○ 調査の実施1(本学内でアンケート等の実施)	○ <u>調査の実施1(活動に対する共有の時間(改善②)、本学内でアンケート等の実施)</u>
第8回	○ 調査の実施2(本学内でアンケート等の実施)	○ 調査の実施2(本学内でアンケート等の実施)
第9回	○ データの整理(観点に基づいたデータの整理)	○ データの整理(観点に基づいたデータの整理)
第10回	○ 分析・統合(特別活動の意義や特色の整理・分析・集約等)	○ 分析・統合(特別活動の意義や特色の整理・分析・集約等)
第11回	○ 集団活動のデザイン1(ネガティブな体験に関するデータの共有とその背景の分析)	○ <u>集団活動のデザイン1(ネガティブな体験に関するデータの共有とその背景の分析(改善①))</u>
第12回	○ 集団活動のデザイン2(事例や理論的な図書、論文等を読解、集団活動の在り方の検討)	○ <u>集団活動のデザイン2(事例や理論的な図書、論文等を読解、集団活動の在り方の検討(改善①))</u>
第13回	○ 望ましい集団活動のデザインに関するアイデア集の作成1(アイデア集の構成及び作成)	○ <u>集団活動のデザインに関するアイデア集の作成1(アイデア集の構成及び作成(改善①))</u>
第14回	○ 望ましい集団活動のデザインに関するアイデア集の作成2(プレゼンの作成)	○ 集団活動のデザインに関するアイデア集の作成2(プレゼンの作成)
第15回	○ アイデア集の相互評価・総括	○ <u>アイデア集の相互評価・総括(改善①)</u>

※ 下線は、課題改善に関する内容



項目 2	「学校行事」：⑧入学式( ) ⑨卒業式( ) ⑩大掃除( ) ⑪健康診断( ) ⑫学習発表会( ) ⑬芸術鑑賞会( ) ⑭運動会( ) ⑮避難訓練( ) ⑯交通安全教室( ) ⑰防犯教室( ) ⑱遠足( ) ⑲修学旅行( ) ⑳集団宿泊学習( )
------	---

本年度は、表3のような形式のアンケートを実施する場合に、質問項目にキャリア教育に関する内容も盛り込むことを意識させたい(改善①)。

今回の改訂で、小学校の学級活動の内容に「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」が新設され、「ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」「イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解」「ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用」という内容が示されたが、この3つに類似する内容が、平成20年版にも活動内容(2)の下位内容として存在している。すなわち、「ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」については、(2)の「ア 希望や目標をもって生きる態度の形成」、また「イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解」は「エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解」、「ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用」は「オ 学校図書館の利用」に対応すると考えられる。つまり、内容(3)は新設されたと言っても、従来の(2)の内容をある程度は含んでいると見ることもできる。したがって、学部学生もこれらの活動を経験したことがあると考えられ、この内容を聞き取ることは、キャリア教育の観点を意識させる上でも有効であると思われる。

中学校の内容についても、平成20年度の学級活動(3)は「学業と進路」であり、それが小学校、高等学校との系統的な連携を図れるよう小学校同様、「一人一人のキャリア形成と自己実現」となった。内容については、ほとんど変化はないが構成として、これまでの「ア 学ぶことと働くことの意義の理解」と「イ 自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用」を1つにまとめ、「ア 社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用」とし、また、「ウ 進路適性の吟味と進路情報の活用」と「エ 望ましい勤労観・職業観の形成」を「イ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成」とまとめるような形になっている。中学校においても、学校教育全体、小学校から高等学校を通じて行う「キャリア教育」の要と明示されたことから、意識付けるようにしたい。

一方、方法面からの昨年度の課題として、受講生の活動の見通しが十分になされず、振り返りの時間があまり取れなかったことが報告されている(下古立(2018))。よって、アンケートを実施する前に、活動のねらいや活動時間の確認など、全体で共有する時間を設定する(改善②)。昨年度も共有の時間はあったと思われるが、担当教員側から一方的に伝えるのではなく、受講生から互いに確認するよう働きかけることで、より主体的な活動になると考える。

#### 4.3. ステップ3 (集団活動のデザイン作成、プレゼンテーション等) において

第11回～第14回では、アンケート結果の分析から、それぞれ「集団活動」をデザインし、作成を進めていく。作成に当たっては、これまで同様、「1 タイトル」「2 調査の結果」「3 結果から見えてきた問題点等」「4 問題点を克服する工夫のポイント」「5 集団活動のアイデア」の構成にする。

表4 「集団活動」デザインのタイトル例

	タイトル
A	代表としてのやりがいを感じさせる代表委員会のあり方 ～RV-PDCA サイクルを児童に委ねることを通して～
B	より良い合意形成を目指す話し合い活動
C	クラスのためになった！を実感できる PDCA 係活動
D	自主的・実践的な態度を育てるみんなで作り上げる楽しい集会活動
E	掃除に関する内容，学校図書館の活用に関する内容，当該学年での目標，がんばること 職業体験に関する内容，自分の夢や希望に関する内容 など

内容については，受講生の主体性を重視するが，調査の結果からキャリア教育の観点があれば，それを取り上げ，最終的に，5の集団活動のアイデアにつなげるような働きかけをする。例えば，表4のAからDまでのような，昨年度までのタイトルを提示すると共に，Eのようなキャリア教育に関する内容も考えられることをこちらからも示す（改善①）。

#### 4.4. その他（「1頁読書」）

「1頁読書」は，講義外で特別活動のテキストとして使用できる文献5冊を受講生が回し読み，受講生は紹介したいページを1頁のみ写しをとり，次時で配布し紹介するという本科目での取組である。下古立（2019）は，「この取組の特徴は，受講生の意識や受講生の意識や学習状況等により，文献を精読し，紹介したい部分を選ぶのか，概観して選ぶのかなど選択でき，負担なく取り組めるところにある。」と述べる。本年度は，キャリア教育の観点についても学んでほしいことから，キャリア教育関連の文献も加えると共に，受講生が読んできた文献も積極的に紹介させるようにする（改善①）。

紹介の際は，なぜその文献を選んだか，どこが印象に残ったかなどを述べさせ，聞き手には，その内容について思ったことや考えたことなどを質問させたり，感想を述べさせたりする。そうすることで，特別活動に対する理解がより深まると考える。

## 5. おわりに

本稿では，新学習指導要領の内容を踏まえた特別活動の講義の在り方についてまとめてきた。特に，キャリア教育の観点については，『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』を見ると，「（中略）社会参画の意識の低さが課題となる中で，自治的能力を育むことがこれまで以上に求められていること，キャリア教育を学校教育全体で進めていく中で特別活動が果たす役割への期待が大きいこと」，「（中略）また，小学校から高等学校まで教育活動全体の中で「基礎的・汎用的能力」を育むというキャリア教育本来の役割を改めて明確にするなど，小・中・高等学校のつながりを明確にする。」といった記述があることから，今回より意識して取り上げたいと考えた。

特に、授業で扱う学級活動（3）での意識付けの工夫が必要であるが、一方で、学校行事やクラブ活動等でも意識することが大切であることについても触れたい。また、今回の改訂では、キャリア教育の観点のみならず、例えば、「集団決定」という考え方から新たに「合意形成」という考え方に変換されたことなどの変更点が見られる。そういった変更点についても触れながら、よりよい特別活動の在り方について、受講生と共に共に深めてきたい。

## 参考文献

- 下古立浩 (2019) 『教育実践研究紀要 (第28巻)』鹿児島大学教育学部附属教育実践総合センター, pp. 200
- 白松賢 (2017) 『学級経営の教科書』東洋館出版社
- 杉田洋 (2009) 『よりよい人間関係を築く特別活動』図書文化
- 杉田洋編著 (2017) 『小学校 新学習指導要領ポイント総整理 特別活動』東洋館出版社
- 広岡義之編著 (2015) 『新しい特別活動』ミネルヴァ書房
- 文部科学省 (2017) 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』) 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』東洋館出版社
- 文部科学省, 国立教育政策研究所教育課程研究センター (2019) 『みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編』文溪堂